

帝王切開時の予防的抗菌薬投与に関するネットワークメタアナリシス

近年世界中で帝王切開による分娩の割合が増加傾向にある。帝王切開は母子の命を守るのに効果的であるが、WHOは帝王切開の割合を10%から15%が理想としている。15%を超えると母親、胎児、新生児の死亡率は横ばいになること、帝王切開における感染症発症のリスクは経膈分娩における感染症発症のリスクの5倍以上とされていることなどから、不必要な帝王切開は避けるべきである。しかし、医療上の理由等で帝王切開が避けられない場合、抗菌薬を予防的に投与することで、感染症の多くを防ぐことができる。その際、予防的に投与する抗菌剤の種類や容量は多岐にわたるが、伝統的なメタアナリシスでは個々の研究において取り上げられた抗菌薬間での直接比較しかできない。

そこで卒業論文では、系統的に集められた、抗菌薬どうしが直接比較された研究によって間接的にも予防効果を考慮したネットワークメタアナリシスを行い、国立成育医療センターの診療サマリーなどで定められている第一世代セフェム系抗菌薬と他の抗菌薬を比較して、どの抗菌薬が母体の子宮内膜炎発症の予防効果が高いのかを明らかにしたい。

本抄読会では、GyteらによるCochrane Reviewで対象となった研究のうち卒業論文で解析対象とした研究のまとめ、consistencyを仮定したもとのネットワークメタアナリシスのモデルの説明、また解析結果を提示する。

主要論文

- 1 Joshua P Vogel, Ana Pilar Betrán, Nadia Vindevoghel, et al. Use of the Robson classification to assess caesarean section trends in 21 countries: a secondary analysis of two WHO multicountry surveys. *Lancet Glob Health* 2015; 3: e260–70.
2. WHO, HRP. WHO statement on caesarean section rates. Executive summary. April 2015;WHO/RHR/15.02.
3. Gyte GML, Dou L, Vazquez JC. Different classes of antibiotics given to women routinely for preventing infection at caesarean section. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 11. Art. No.: CD008726. DOI: 10.1002/14651858.CD008726.pub2.